

cue

11



特集

偉大なるオーク



床の記憶
MESSAGE FROM FLOORS.

51

母ちゃんは言っていた。

床の音で自分か弟かわかるって。

弟に向かって

「あんたは食べる量も多いし、歩く床の音も大きい。

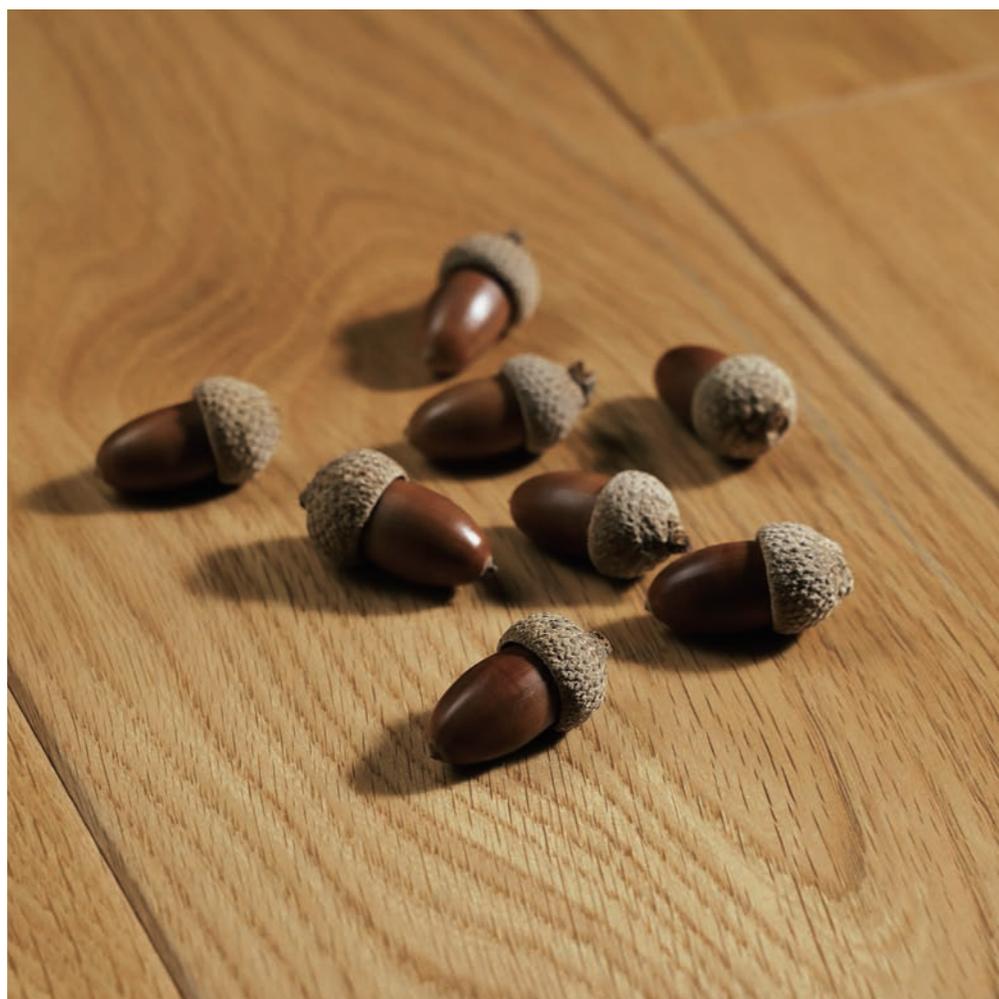
静かに歩きなさい!」

そんな弟は今**190センチ**。(自分は170センチ…)

俺も母ちゃんに怒られるぐらい食べて大きな音で歩いていたら良かったです。

床にも家具にも大人気のオーク。どんぐりのできる木としてなじみ深い木です。当社のフローリングでもオークは圧倒的一番の人気樹種となっています。実はいま、オークをはじめ広葉樹の価格が世界的に高騰しています。理由は新型コロナウイルスに端を発したウツドショックだけではありません。異常気象による森林喪失、温暖化によるキクイムシの発生、さらにオークに関しては、ロシア・ウクライナ戦争の影響による丸太供給量の減少、そしてウイスキーブームによる丸太の増加を背景に、いまや品質の良いオークは稀少材として取引されるようになりました。

今回の特集では、なぜオークはこれほどまでに人気があるのか、その歴史的背景、種類、用途、そして、オークの素材としての魅力について迫ります。(文/取材・西村)



ミズナラのどんぐり



エンジェルオーク

サウスカロライナ州チャールストンにある、推定樹齢400～500年のサザンライブオーク(学名: *Quercus virginiana*)。生命のある有機体としてはミシシッピ川以東で最古の部類に属すると考えられています。高さ20メートル、幹の太さ8.5メートル、一番大きい枝の長さが56メートルにもなります。

特集

偉大なるオーク

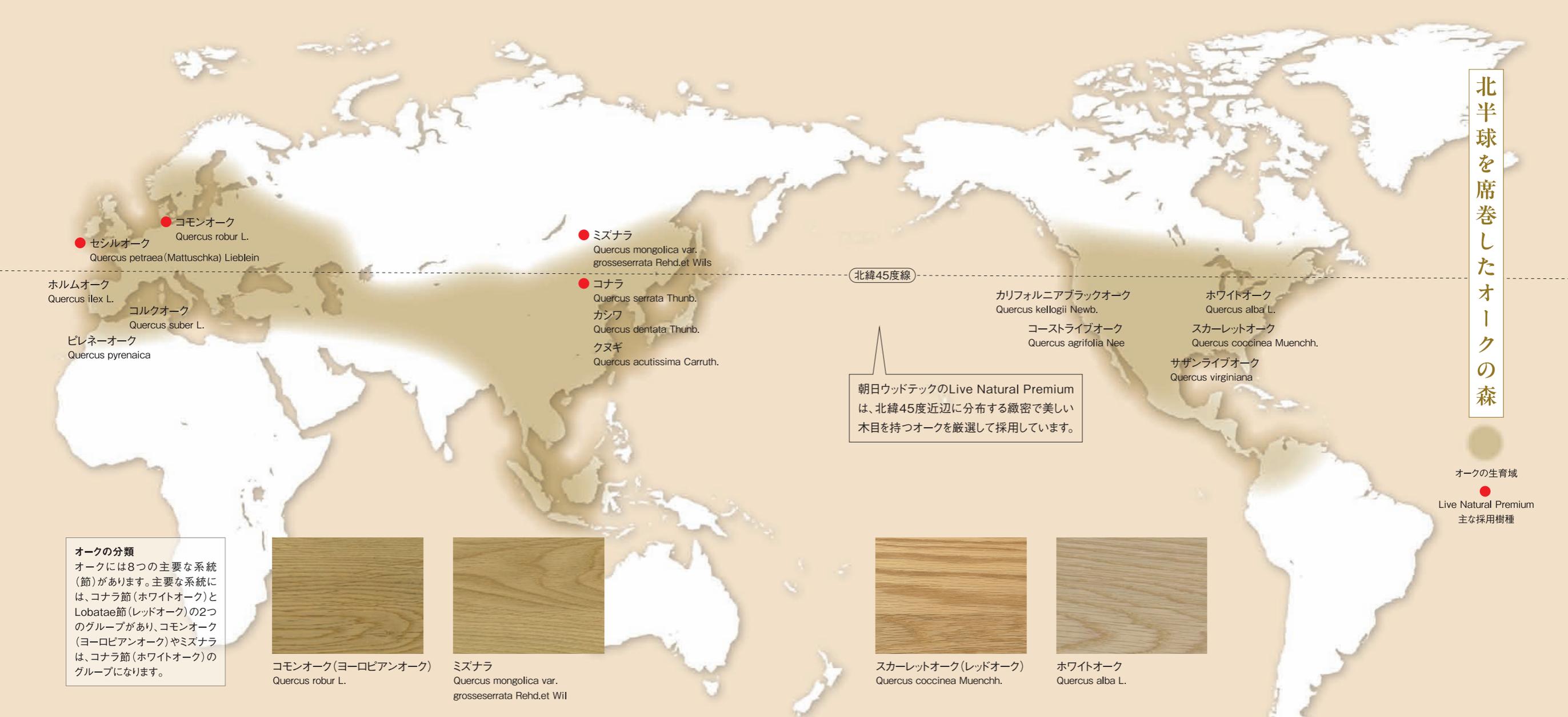
オークは生態系においてキーストーン種(生息する生態系全体に重要な影響を与える種であり、中枢種とも呼ばれる)として位置づけられ、北半球の森林において機能的な基盤を築いています。

オークの森は、様々な生物の多様性を支え、菌類からカリバチや鳥類、哺乳類まで広がります。また、オークは食料としてのドングリや、建築や家具、船の材料として利用され、これによって人類の文化形成に寄与してきました。実際、オークはケルト神話、ギリシヤ神話、北欧神話など多くの神話や伝説に登場し、人々にとって極めて重要な存在であったことが示唆されています。

オークは生態的にも経済的にも世界で最も重要な木本植物(樹木)とされ、その存在は人類にとって不可欠なものと言えます。

オークは日本語ではナラと呼ばれます。英語でオークと総称されますが、ブナ科コナラ属の樹で、学名はラテン語の「*Quercus*」。「美しい木」を意味します。

北半球を席卷したオークの森



オークの分類
 オークには8つの主要な系統(節)があります。主要な系統には、コナラ節(ホワイトオーク)とLobatae節(レッドオーク)の2つのグループがあり、コモンオーク(ヨーロッパアンオーク)やミズナラは、コナラ節(ホワイトオーク)のグループになります。



コモンオーク(ヨーロッパアンオーク)
Quercus robur L.



ミズナラ
Quercus mongolica var. *grosseserrata* Rehd.et Wil



スカーレットオーク(レッドオーク)
Quercus coccinea Muenchh.



ホワイトオーク
Quercus alba L.



Granit Oak (ブルガリア 樹齢1650年)



Kongeegen (デンマーク 樹齢1500年以上)

現在広まっているオークの原種は、およそ5600万年前に歴史に初めて姿を現したと考えられています。これは人類の誕生とされる約500万年前よりもはるか昔にさかのぼります。始新世(約5600万年前)の前期、北米大陸とユーラシア大陸が陸橋で結ばれていた時代には、北米、ヨーロッパ、アジアにまたがる巨大な森林の一部をオークが形成していた可能性が高いと言われています。

現在、世界中で存在するオークは、近縁種を含めても400を超える種類(分類学者によって諸説あり)が確認されています。これらの種は、オーストラリアと南極を除く4つの大陸に広く分布しています。

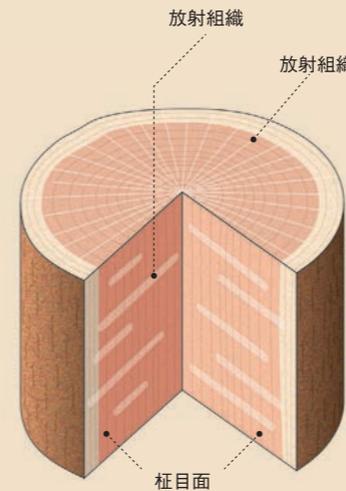
きわめて長寿で樹齢は最低でも400〜500年、長ければ2000年にも達すると言われ、今もヨーロッパには樹齢1500年を超えるオークが現存しています。

木材業界において、オークについては、古くから、比較的寒冷地で育つ木目の詰まった材が良材とされ、高値で取引されてきました。特にいまや希少材となった日本の北海道産「ミズナラ」は、良材として珍重され、戦前はオタル(小樽)オークと称して、高級家具用材としてヨーロッパに輸出されていた歴史があります。

オーセベリ船
ノルウェーにある墳丘墓から発見されたヴァイキング船。ほぼ全てオーク材で出来ている。造船材としてオークが一番に選ばれたのは、強く、重すぎず、水を通さず、曲げることができ、何よりも大きな放射組織のおかげで容易に加工が出来たからです。



オスロのヴァイキング船博物館で展示されているオーセベリ船。(Wikipediaより)



オークの特徴的なキャラクターである虎斑(とらふ)模様は、この放射組織の断面から生まれています。オーク以外の樹種は放射組織が小さく目立ちませんが、オークは、放射組織の幅が数ミリから十数ミリと幅広いいため、目視でもはっきりと見ることができます。

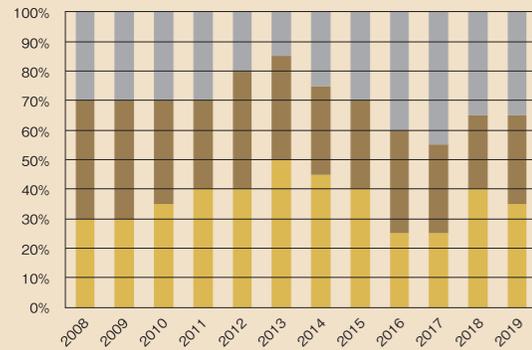
太古の時代、まだ石斧しか存在しなかった時代において、オークはその特有の構造から、割ることが最も容易な木とされてきました。オークは大きな放射組織を備えており、これにより丸太を横から割るだけでなく、周囲から中心に向かう放射組織に沿って縦にも簡単に割ることが可能でした。つまり、人間が思い描いた形状を実際に作り上げることができ、かつ耐久性を備えた西洋社会で最初の材料でした。

また、オークは強靱でありながら適度な重さを持ち、水を通さず、また曲げたりなどの加工も出来たため、多岐にわたる用途に利用されました。薪や柱、塀などの一般的な用途だけでなく、船舶や橋、荷台、樽、車輪などの耐久性を要する構造物にも活用されました。さらに、オークが形成する虫こぶ(ゴール)からは、インクの原料が得られるなど、多岐にわたる応用が可能でした。

インテリアで圧倒的な人気を誇るオーク

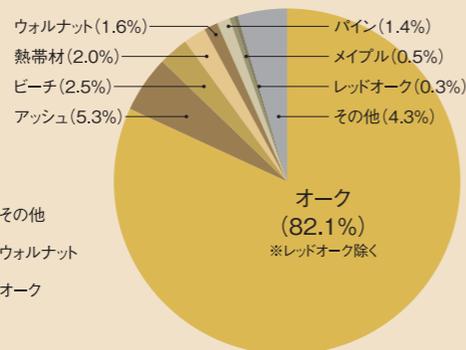


ミラノサローネにおける樹種比率の変遷



朝日ウッドテック調べ(2020年コロナ禍以降は未実施)

欧州フローリングの樹種構成比(2022年)



European Federation Parquet Industry資料より作成

オークは、イギリスやドイツなど10以上の国で国樹とされ、通貨や冠のデザインにも頻繁に使われるなど、ヨーロッパでは強さと知恵の象徴として宗教的・政治的なシンボルとして位置づけられています。そして、その優れた素材としての特性から、インテリアにおいても欠かせない存在です。

床や家具に使われる樹種として、オークは圧倒的な人気を誇ります。例えば、ヨーロッパの挽き板フローリングの80%がオークで構成されています。また、世界最大の家具見本市であるミラノサローネでも、当社が調査を始めた10年以上前からオークとウォールナットが2大樹種として人気を保ち続けています。しかし、直近のサローネでは希少性の高まりと価格の高騰からオークの比率が少し下がっているようです。



グレイッシュ着色のオーク「Poliform」



ヒコックス邸 ハイバックチェア
デザイン: フランク・ロイド・ライト1900年頃 豊田市美術館蔵



宮本氏は200にも及ぶ樹種で同じ形態の椅子「ボスコ」を製作し、材の個性を確認されてきた。



宮本茂紀

国内外の多くのデザイナーと共同して試作品を作ってきた家具モデラーの第一人者。海外トップメーカーの商品ライセンス生産化に研究開発段階から着手し、国産化に協力する一方、自動車のシート開発協力、JR新幹線のシート開発協力なども手掛けた。厚生労働省の卓越技能章や、黄綬褒章など数々の輝かしい章を受章。著書:「原色インテリア木材ブック」(建築資料研究社)「世界で一番優しい椅子」(光文社)など。

オークは意匠材として非常に魅力のある木だ。おもしろいところは板目と柾目でその木目が極端に異なることにある。柾目に木取ると優しい表情を見せるが、板目に木取ると逆に力強い木目が出て頼もしい。このコントラストの違いが実に美しいのだ。

さらに特徴的なのが虎斑という独特の杢目柄である。フランク・ロイド・ライトはこの虎斑に魅せられ、家具や内装のあしらいに数多く用いた建築家としても知られている。彼のこだわりは木取るところから関わるほどの執着ぶりだ。見事な造形を家具と空間の中に展開させた。ライトが「ウォレン・ヒコックス邸」のためにデザインしたハイバックチェアは正面から見たときに背から脚にかけて全面に虎斑が入っている。これは相当に技術のある職人が綿密に計画して作らないとできない。この椅子をはじめて見たとき、その仕事の凄さもさることながら、オークという材料の持ち味を生かすことができるライトの造詣の深さに驚いたものだ。この虎斑は柾目に美しく出てくるのだが、前述のとおり木取りが大切であり、歩留まりの悪い面倒な工程となる。それ故に美しい虎斑とめぐり合えることが至上の喜びとなる。

床づくりにおけるオーク

フローリングのものづくりに携わる
当社のメンバーにオークを語ってもらいました。

「森の王」と称されるオーク

永見 ものづくりの立場からオークの魅力を語る場合、調達面、意匠面、性能面、3つの切り口があると思います。調達面からいうと、最近では競争の影響等で価格も高騰し、品質の良いものをまとまった数量で集めるのが難しくなってきましたが、基本的にオークは世界に広く分布しており、蓄積量も多く安定的に調達できる樹種といえます。なお、オークといっても色々な種類がありますが、当社では主にヨーロッパアンオークと日本のミズナラ・コナラを使っています。オークの調達先のひとつであるドイツの森に入るとその森の豊かさに癒されます。ヨーロッパではオークのまわりに成長の早いビーチを残すことでオークは日光を求めて上へ上へとまっすぐに成長するんですね。オークが伐採できる大きさになるまで、ビーチが数代にわたって見守る様から、キング・オブ・フォレスト(森の王)のオークとサーバント・ビー



(左から)
隈元克紀 朝日ウッドテック株式会社 生産技術部生産設計室 室長
永見義広 朝日銘木株式会社 常務取締役
伊藤真浩 朝日ウッドテック株式会社 執行役員 商品部副部長

チ(召使い)と言われています。そのようにヨーロッパで大事に育てられている現場を実際に見て、オークに関する様々な逸話を聞いていることもあり、オークについてはほかの樹種とは違った特別な魅力を感じています。

最も美しい木目を持つ、木の中の木

伊藤 私も、オークは床の化粧材として一番付き合ってきた樹種なので、特別な思いがありますね。意匠面でいうと、数多ある樹種の中でもオークは最も美しい木目を持つ樹種の一つではないでしょうか。ヨーロッパでキング・オブ・フォレストと呼ばれるように、まさに木の中の木ともいえる樹種だと思います。例えば、「木の木目、色を描いてみてください」というと、多くの人がオークの色、板目模様、いわゆる筭杵を描く人が多いですね。

隈元 たしかに木の中の木、のイメージですね。オークは道管がはっきりしている環孔材なので、木目ははっきりと出てきます。板目と柾目、また、程よい色のばらつきが相まって非常に美しいオークならではの表情を持っています。着色においても、バーチやビーチといった散孔材はきめが細かい肌合いがゆえに、着色剤の付き方が単調となり、塗りムラが目立ちやすい傾向があります。それに対して、環孔材のオークは着色適性が高いので、より幅広いインテリアにコーディネートできる床材への展開がしやすい樹種だと思います。

安心感を与える銘木

伊藤 最近はRUSTICという節や入皮といったキャラクターをあえて入れることで天然木らしさが感じられるシリーズも人気ですが、そのシリーズの中でも圧倒的にオークが人気です。オークの持つ黄褐色の色合いと適度な濃淡に、キャラクターが入ると目立ちすぎず目立たなすぎない、すごくいいバランスがとれたナチュラルな意匠が生まれるんです。

オークは性能面からみても良好です。加工がしやすくかつ耐久性もあるという、適度な硬さをもっているのが、人が生活をともにする家具や建材として使いやすい木だと思いますね。

永見 様々な木がある中で、どの点をとってもバランスが良いので、オークは天然木の素材として世界でも優れた樹種だといえるのではないのでしょうか。だからこそ、三大銘木といわれるウォルナットやチーク、マホガニーなどは違った意味で、オークは偉大な銘木だといえると思います。用途は非常に幅広く、歴史的にも人にとってなじみの深い木であり、口に入るウイスキーなどのお酒の樽にも使われているので、感性的にも「安心感」を感じさせてくれる木ですね。





樽とオークの関係

世界各地で、樽材には普遍的にオークが利用されています。ワイン樽においては、古代エジプト、ギリシャ、ローマではヤシ、クリ、クルミ、サクラなどが主に使用されていましたが、15世紀から16世紀にかけて、次第にオークが使用されるようになりました。

ウイスキー樽は通常、北米産のホワイトオーク樽が使用されます。樽を使用した貯蔵や熟成の工程がウイスキーの製造に組み込まれるようになったのは、18世紀後半から19世紀前半の時期と言われています。

樽にオークが使われる理由は、道管にチロースと言われる物質が詰まっており、内部の液体が漏れにくい特性をもつからです。特にホワイトオークは道管の詰まり具合が緻密で液体が漏れにくくなります。

もうひとつは、オーク材の中に含まれる特有の成分がウイスキーづくりに重要な役割を果たしているからです。オークの樽からタンニンやカテコールなどのポリフェノール類が溶け出し、ウイスキーに香味を与えながら琥珀色に染めていきます。ウイスキーは、樽内で5年や10年といった長期間にわたり貯蔵されることで、その特有の品質が初めて形成されるお酒です。樽は、貯蔵だけでなく反応容器として重要な役割を果たします。



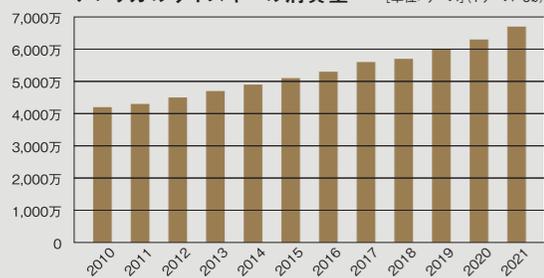
洋樽は、樽材の木質成分を活性化させるために、樽内部に焼き(熱処理)を加える。この作業により熟成効果を高めている。

近年は世界的なウイスキーブーム。背景として新興国での需要の増加があります。インド、中国などの経済発展に伴って富裕層が高級スコッチウイスキーを飲むようになりました。また、日本産のウイスキー「ジャパニーズウイスキー」も国際的なウイスキーの品評会で世界最高賞を受賞するなど、海外で高く評価され輸出量が急増しています。

ウイスキーブームによって樽の需要が高まり、樽に使用するホワイトオークの価格も10年前に比べると5~6倍になっています。ジャパニーズウイスキーの樽に使われるミズナラも、丸太価格が4年前から9割上回るなど、オーク材の市場価値はますます高まりを見せています。

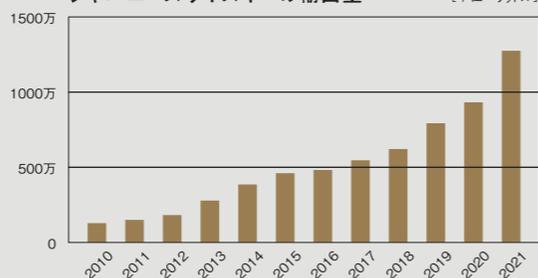
(取材/写真協力・有明産業株式会社)

アメリカのウイスキーの消費量 [単位: ケース] (1ケース=9ℓ)



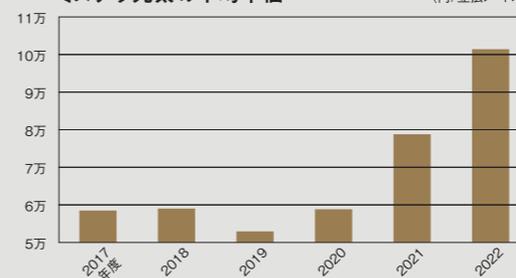
(DISCUS (Distilled Spirits Council) のデータをもとに作成)

ジャパニーズウイスキーの輸出量 [単位: リットル]



(財務省普通貿易統計のデータをもとに作成)

ミズナラ丸太の平均単価 (円/立法メートル)



(旭川林産協同組合のデータをもとに作成)

ウッドショック収束後もオークをはじめ広葉樹の価格は高騰し続けている。

オークを生かす 着色の追求



ブラン
うっすらと積もる雪のようなホワイト



エクリュ
光を帯びて輝く生成り色



グレイ
夜霧のような柔らかいグレー



フィセル
麻紐が重なりあうようなベージュ



トープ
静けさを包み込む大地のようなブラウングレー

素材の色を考慮した色づくり

永見 現在、当社の Live Natural プレミアムには MOMENT という着色シリーズがあります。きっかけは天然の木にはない白い床のニーズでした。求められたのはメイプルやシカモアでもない白。そこで、プレミアム2ミリの挽き板を生かした新しい着色表現を目指した開発が始まりました。

隈元 オークの道管に顔料を擦り込み、従来にはない着色工程で色味を重ねていくのですが、この工程を複数回繰り返すことで、木が本来持っている透明感を失わない奥行きのある色味を実現しています。マニユファクチュア的な手作りではなく工場の量産ラインの中で生産できる体制を作り上げるのが本当に大変で、開発当時は試行錯誤の連続でした。しかし、苦労の末、この「ライムウオッシュド加工」と名付けられた当社独自の新技法を確立できたことで、無垢材挽き板の最大の魅力であるその木味を、よりエレガントに表現することができるようになったと思います。

また、着色技法だけでなく、素材の色を考慮したうえでの色選定も重要なポイントです。インテリアートレンドも意識しつつ、素材がもっている色と顔料の色が相まって、さらにオークの個性差による色味のばらつきがコントラストとして美しく見えてくるような色を選定してい

ます。試作は数えきれないほどしたのですが、最終的に候補となった30色の中から外部デザイナーにも評価してもらいながら選んだのが、現在の5色のラインナップになります。

厳選した材による 緻密な木目へのこだわり

伊藤 道管着色は場合によっては、木目が目立ちすぎてうるさく感じる場合があります。そこで、製品としてエレガントさを表現するため、様々な種類のオークの中から、北緯50度近辺の比較的寒冷地域で育った木目の詰まった（目細材と呼ばれる）種を厳選し採用しているのもこだわりです。

フローリングにも時代によってトレンドがあり、販売比率でも、5年ほど前までは木そのものの色の商品（クリア仕上げ）が非常に高かったのですが、徐々にカラー品の比率が高まってきています。これからも、さらに木味を生かす新たな着色表現を研究していきたいですね。その時はやはりベースはオークが主になると思います。偉大なるオークの力を借りて、さらに魅力的な床材を追及していきたいと考えています。

これからもオークと共に

今回調査と取材を進める中で、オークが古より人々の生活と密接に関わってきたこと、オークが人類にとっていかに大きな存在であり続けてきたのかを知ることが出来ました。しかし、先に書いたように、身近で親しまれてきた木材であるオークは今や、手の届きにくい存在になりつつあるのです。

私たちは本物の木のある暮らしが人を幸せにすることを信じています。そして、そこにオークの存在は欠かせないと思っています。だからこそ、建材メーカーとして、オークをはじめ天然木の価値をしっかりと認識し、その魅力を最大限に引き出した商品によって、床の上の幸せな時間を提供していきたいと思えます。

〈参考文献〉
加藤定彦「櫨とオークに魅せられて」TBSプリタニカ 2000
ウィリアム・ブライアント・ローガン「ドングリと文明」日経BP社 2008
A.L.ヒップ/P.S.マノス/J.キャベンダー=ベアズ「オークの進化史」日経サイエンス2021年3月号

世界の床を訪れる3

GERMANY



世界を知ることで見えてくる日本の床のあるべき姿があるのではないか。ということからスタートした「世界の床」を探求するプロジェクト。今回はドイツの床をご紹介します。ヨーロッパのフローリングにおける樹種ではオークが80%を占めており、今回の2邸もオークの床でした。



ノイマルクトの住宅

まず1邸目は、ニルンベルク近郊にある住宅。広告会社の社長一家が住んでいます。ご主人は南ドイツアルペン地方の建築が好みで、木材をふんだんに使用したいと希望されていたそうです。一方、北ドイツ出身の奥様は、モダンな家を望まれており、お二人の望みであるアルペンとモダンスタイルを融合した建築になっていました。一階のゲスト用サロンはアルペンスタイル。床はもちろん、天井、壁にもオーク材が一面に張られていました。乱幅でリズム感のあるボーダー張りの床は表面材



が3・6ミリの挽き板フローリングです。

2階は家族のプライベート空間となっております。同じくオークのフローリングが、廊下、リビング、ダイニングキッチン、子供部屋など、120平方メートルの面積を見切りなしで張り込まれていました。設計士が床張りのマイスターとともに考えたそうで、長さが2〜5メートル、幅は158ミリから320ミリまで5段階の幅をランダムに組み合わせた乱尺張りで、まさに床が部屋のグリード感を高めているように感じました。



インテリア雑誌コンフォルト編集部と当社による「世界の床を探求するプロジェクト」メンバーとノイマルクトの住宅の設計士ベルシュナイダー氏。





オスロ通りのタウンハウス
 続いて、ミュンヘン市のソーシャルプロジェクトとして建てられた、タウンハウス（長屋式の集合住宅）です。プロジェクトを手掛けた建築家にお話をきくと、所得を問わず多くの人が木のぬくもりを享受できるように、低コストが実現可能な8ミリ幅のオークの集成フローリングを採用したとのことでした。床暖房も完備しており、ドイツも基本的には土足文化の国ですが、今回訪問したオーナー宅では靴を脱いで生活されていました。



床座と椅子座が共存する、 “あえて、小上がりのある暮らし” 「デュオ・スカーラ市ヶ谷」

東京・市ヶ谷にあるマンションの1室をリノベーションするプロジェクトで LiveNatural プレミアム MOMENT フィセルを採用頂きました。一台二役三役を担うインテリアの工夫がされており、心地よい暮らしが想像できる空間です。今回、デザインを手掛けられた YouTuber「建築家二人暮らし」のお二人にお話を伺いました。

中古マンションリノベーションプロジェクトの経緯や コンセプトを教えてください。

私たちは、YouTubeで6畳や8畳のお部屋における家具レイアウト提案をCG等を使って情報発信していたのですが、以前より「リアルな空間で提案できないか」という思いもありました。今回、様々なご縁もありリノベーション住宅を手掛けるリビタさんと協働し、実際のマンション1室の空間デザインと、企画から竣工までのプロセスをYouTubeで情報発信する機会をいただきました。

この部屋のコンセプトは、「あえて、小上がりのある暮らし」です。現代人の大半は椅子座（洋式）の生活に慣れていますが、洋式は「座る＝椅子」「寝る＝ベッド」といったように、暮らしにおける行為と家具がセットになるため、日本のコンパクトな住まいが家具に占領されがちです。一方で床座は、直に座れますし、布団を敷けば寝ることもでき、家具が減ると同時に空間の自由度が上がります。そこで、今回の企画ではリビングの一部に小上がりを作ることで床座と椅子座の選択肢を増やしました。フローリングにベッドや机を置いてもいいし、畳に布団を敷いて寝てもいい。日本の住宅事情を考えると、限られた空間の中で「色んな暮らし方ができること」が重要だと思っています。今回の企画では、不動産・建築・家具の垣根を越えようという大きなテーマがありました。業界それぞれに暮らしにおける価値を提供しているけれど、利害関係もあって業界に垣根がある気がしていました。でも不動産を購入するとき、住まい手としては「ここに家具を置きたい」という「暮らし」そのものが対象です。小上がりとそこでの暮らし方（家具レイアウト）の選択肢を私たちがCGシミュレーションでお伝えすることで、住う方自身が暮らしをイメージするきっかけとなり、不動産・建築・家具の垣根を少しでも崩せないかと考えたのが、今回の試みでした。

LiveNaturalプレミアムMOMENTを

ご採用いただいた経緯を教えてください。

床座の暮らしでは、床が直接肌に触れるので、床の素材を何にするかは大事なポイントでした。今回は小上がりの畳表から決めていき、その色合いに合うものを選定していきました。落ち

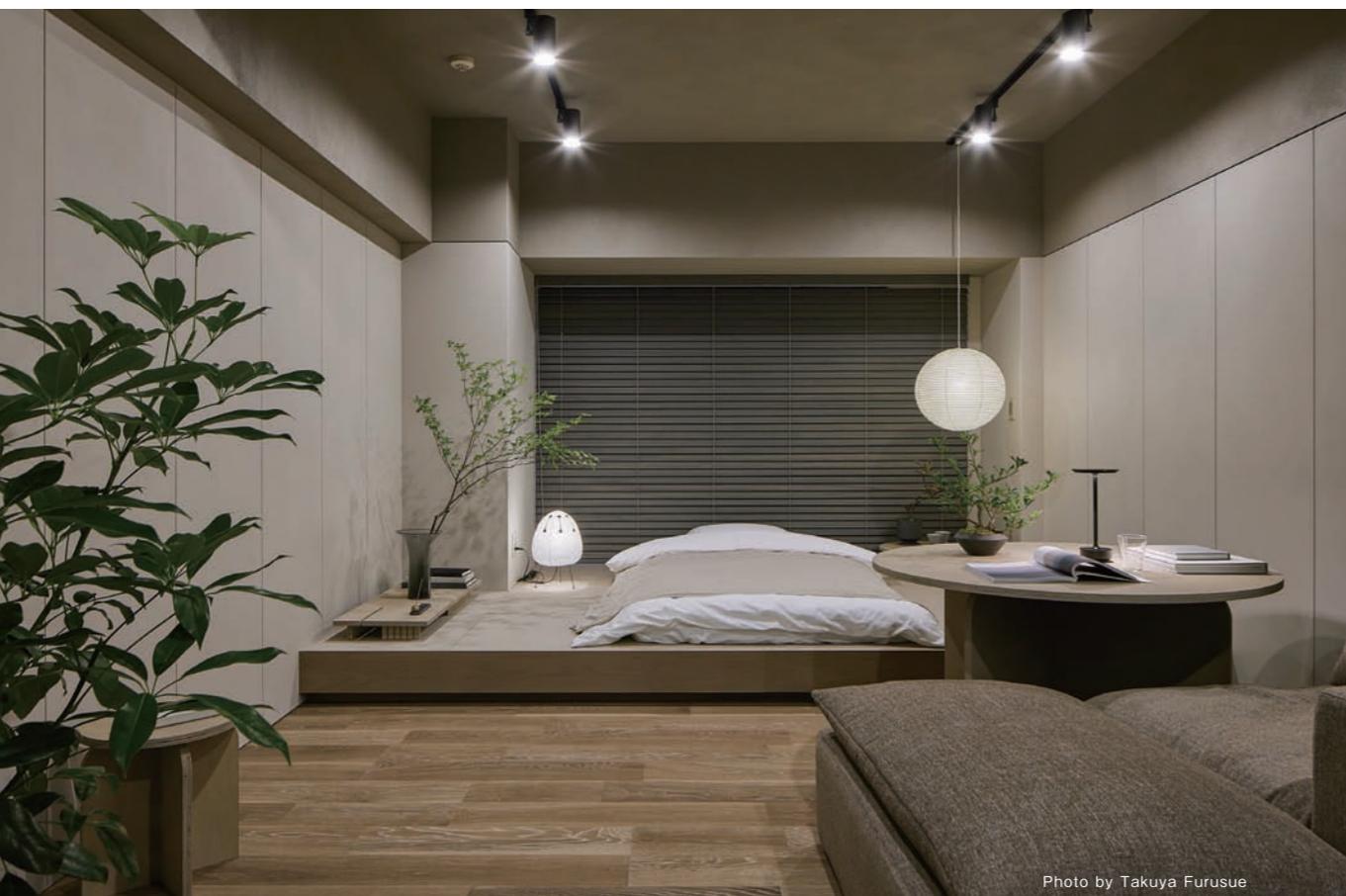
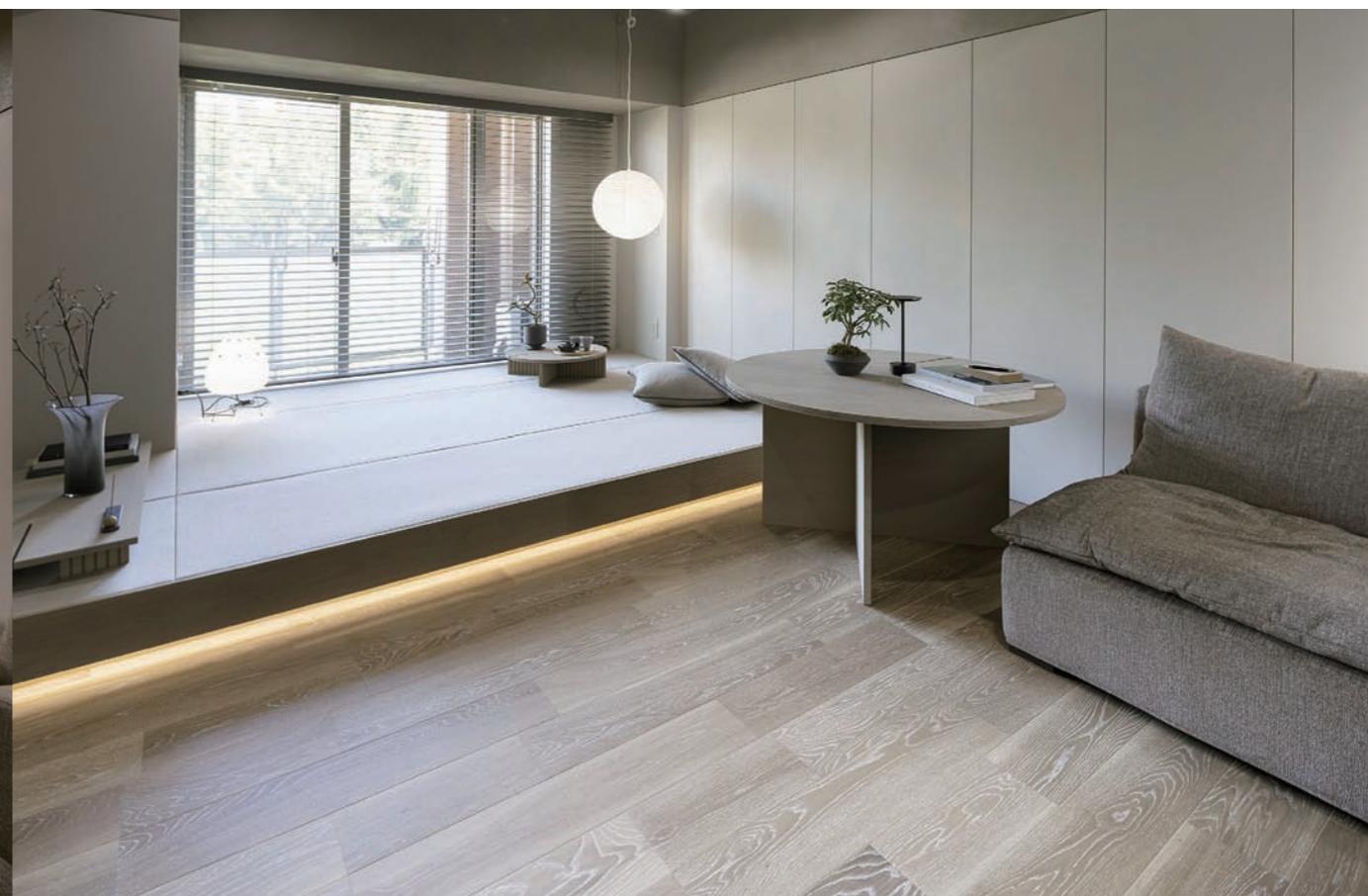


Photo by Takuya Furusue

夜になると、布団を敷いてゆっくりと過ごす空間に。照明によってフローリングの色合いも変化し、より落ち着いた雰囲気になります。



床座と椅子座が共存する空間のベースとなる床に LiveNatural プレミアム MOMENT フィセルを ご採用頂きました。小上がりは、畳の上でくつろげる空間に。

Youtuber
建築家二人暮らし

日々の暮らしで大事にしている「豊かさ」をテーマに、「もの、こと、空間」について、2020年3月より発信し始め、現在はチャンネル登録者数は21万人を超える人気チャンネル。2021年には自宅の事例を基に家具の選び方や暮らしのアイデアをまとめた書籍「小さい部屋で心地よく」を発刊。



建築家二人暮らし
youtubeチャンネル

分たちが提案するもの」に興味や共感を持ってくれる人たちと、そのプロセスを共有しながらYoutubeを通じたものづくりに関わっていきたいと思っています。

フローリング選びを迷っているお施主様へのアドバイスをお願いします。

コーデイナーやインテリアスタイルにこだわることも人によって大事なポイントだと思えますが、私たちは居心地こそが重要だと考えているので、フローリング選びは、「肌触り」をもっと重要視してもいいと思います。そういう意味では、実際に裸足で歩くとか、挽き板と突き板とシートの違いを体感した時に、自分がどう感じたかという主観的な部分に重きを置いてもよいのではないのでしょうか。意図的に主観的に持つて行った方が悩みは少なくなると思うんですね。もちろんたくさんの情報を収集して他の方の事例を参考にするには良いと思いますが、最終決定の場面では主観を大事にすると、良いお家づくりができるのではないのでしょうか。

(文/取材・大西)



オリジナルで製作されたテーブルは、床座と椅子座のどちらからでも使える優れたもの。

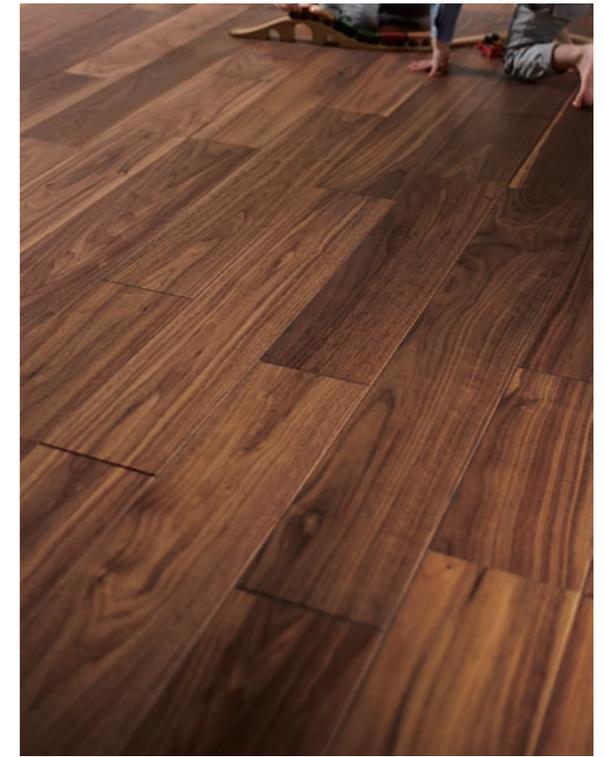


玄関から見たキッチンは、アクセント的な色合いがスッキリとした印象を与えます。



ベージュ系の色味に、木目やオークの濃淡を感じられるフローリング。壁面ともマッチした仕上がり。

フローリングとして史上初!
Live Natural Premium
「ロングライフデザイン賞」を、受賞しました。



LONG
LIFE
DESIGN
AWARD

2023グッドデザイン賞審査委員長
齋藤精一氏コメント

様々な技術の進歩によって一見変化は見られなくても、機能が大きく進化することが出来ます。変わらぬ価値観に、大きく変わる機能を統合するというとても難しい挑戦ですが、Live Natural Premiumはそれを美しく実装していると感じました。変化し続ける社会や環境と共に、様々な分野でデザインは進化し続けています。それは生活にも様々な部位に訪れます。そんな毎日触れるデザインを実装されている朝日ウッドテックさんの更なる、静かな美しい進化をこれからも期待しています。



Photo: Muryo Honma (Rhizomatiks)

齋藤精一 パノラマティクス 主宰
建築デザインをコンベンシア大学建築学科(MS.A.A.D)で学び、2006年株式会社ライゾマティクス(現:アブストラクトエンジニア)を設立。社内アーキテクチャー部門「パノラマティクス」を率い、現在では行政や企業などの企画、実装アドバイザーも数多く行う。2018-2022年グッドデザイン賞審査委員副委員長を経て、2023年グッドデザイン賞審査委員長に就任。2025年大阪・関西万博では、EXPO共創プログラムディレクターを務める。

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞とは?

グッドデザイン賞の一部門で、長年にわたるスタンダードであり続けるデザインを顕彰する賞。単に「長く残っている」ことを讃えるのではなく、暮らしの中で人々に愛され、これからも変わらずに存在し続けてほしいデザインに贈られます。通常のグッドデザイン賞は毎年1500作品ほどが受賞するのに対し、ロングライフデザイン賞は20作品ほど。誰もが知るロングセラー製品など、ユーザーから広く支持・信頼を得ているデザインが受賞しています。

今回の受賞は、フローリングとして初めての「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」受賞となりました。同商品は、発売当時の2012年にも天然木フローリングとして初めての「グッドデザイン賞」を頂いており、それに続く受賞です。今後も、住まい手や住宅関連ユーザーの皆様、心地よい木の床を通じて幸せな生活空間をお届けしていきます。

(文)取材・山野

過去の受賞例



椅子 [CH24/Yチェア]
カール・ハンセン&サン



ウイスキー [サントリーウイスキー角瓶]
サントリー株式会社



扇風機 [ザ・グリーンファン]
バルミューダ株式会社



ビール [アサヒ スーパードライ]
アサヒビール株式会社



化粧石鹸 [化粧石鹸カウブランド赤箱/青箱]
牛乳石鹸共進社株式会社



清涼飲料水 [ポカリスエット]
大塚製薬株式会社



キャラメル [12粒 森永キャラメル]
森永製菓株式会社



コーヒーフィルター [メリタ アロマフィルター]
メリタジャパン株式会社



消しゴム [モノ]
株式会社トンボ鉛筆



懐かしさ温かさで包む住まい



Y様ご夫婦



株式会社カヤノ
茅野直樹様 (右)
八木大志様 (左)

ていました。

「床とはいつも格闘しています。」と、プロのコンテンツパラリーダンサーであるY様は、ステージに立つ際、床にささくれがないか、滑らないか、常にコンディションを探りながら足裏で感触を確かめることが日常。ダンサーなので足裏センサーが他の人より敏感なのではと考えた設計士から Live Natural Premium の提案を受け、踏み心地や足触りをサンプルで確認され、滑らかな質感と色合いにご納得いただきご採用。「家の中では床と格闘しなくてもよさそうです。」と素敵な笑顔で仰っていました。

運命的に出会った中古マンションをフルリノベーションされたY様ご夫婦。設計プランは全てお任せされたそうですが、Y様の人柄を現したような柔らかく温かみのある空間に。家の中ではゆったりと過ごせるよう、昭和を感じるようなレトロな雰囲気を取り入れ、所々にヌックやベンチなど佇める場所を作るなど、リラックスできるアイデアが散りばめられています。



Select
vol.17

株式会社カヤノY様邸

Live Natural Premium / RUSTIC ブラックチェリー



工場にて。オークの魅力を引き出しながら、床へと仕上げられていく工程を取材しました。

編集後記



先日、ずっと行きたかったアドベンチャーワールドに行ってきました。恐らく人生で初めてパンダを見たり、念願のイルカショーを見たりと、充実した時間でした。関西にもまだまだいけない場所が多いですが、いつか日本全国をまわってみたいと思います！（山野）



先日、ビートルズの最新曲として「Now And Then」がリリースされました。この曲はジョン・レノンによって1978年に録音されていた音源に最新のAI技術を駆使して完成させたそうです。ジョン・レノンらしいメロディのとても美しい曲で、最近毎日のように聴いています。（相原）



阪神日本一やオリックス優勝、ヴィッセル神戸優勝などスポーツで盛り上がっている関西ですが、先日初めてバレーボールを観戦してきました。テレビ越しとは違い、生で2mほどの選手のプレーを見ると、音の迫力とパワーの凄さに驚きました。また機会があれば、行ってみたいです。（大西）



2歳半と1歳の息子たちを連れて名古屋のレゴランドへ行ってきました。大人がみてもワクワクするレゴで出来た様々な造形物、また、小さな子供でも楽しめるアトラクションもたくさんあって、かなり面白かったです。パーク内には1700万個のレゴ・ブロックと10000体のレゴ・モデルが使われているそうですよ。体験型的水族館もあり、お勧めです。（西村）

cue

11

【cue(キュー) = 手掛かり、きっかけ】

発行日 2024年1月20日
編集長 西村公孝
デザイン 鈴木信輔(ポールド)
発行 朝日ウッドテック株式会社

ジョンレノンが最も愛したギター

ジョン・レノンのトレードマーク

1931年にアメリカ合衆国で設立された楽器メーカーであるリッケンバッカー社は1958年に「リッケンバッカー325」というモデルを楽器ショーでデビューさせました。しかし発売当初は、ほとんど売れずに倉庫には在庫が常に残っていたと言われていました。ビートルズはデビュー前にドイツのハンブルグで講演活動をおこなっていましたが、その際ジョン・レノンがハンブルグの楽器店で売れ残っていた1958年製「リッケンバッカー325」を入手しました。ジョン・レノンがこのギターを選んだ理由については、当時ジョン・レノンが懂っていたミュージシャン(ジャズギタリスト兼ハーモニカ奏者のトゥーツ・シールマンズ)がこのモデルを使っていた、又はたまたま売れ残っていたから等、諸説あります。ビートルズ初期から中期にかけてジョン・レノンのトレードマークにもなった、このギターは、こうして一躍世界中から注目される事になったのです。

リッケンバッカー325の特徴

リッケンバッカー325はセミアコースティックタイプでボディは空洞になっています。セミアコースティックタイプのエレクトリックギターは一般的なソリッドギター(ボディが詰まっている)に比べて暖かみのある音で、やはり初期のビートルズサウンドには欠かす事が出来ません。ネックはショートスケールタイプで通常のギターより短くなっています。この為ギターソロには不向きだと言われてはいますが、ジョン・レノンのボーカル中心の演奏スタイルからすると通常のロングスケールより軽く取り回しが良いショートスケールの方がメリットがあったのかもしれない。最初に使っていた1958年製のリッケンバッカー325はボディ、ネックにアルダー材。指板にはローズウッドが使われています。1964年に出演したアメリカのテレビ番組「エド・サリヴァンショー」【この時の視聴率は60%、このテレビ出演を機に全米でビートルズ旋風が巻き起こりました】以降ジョン・レノンが使っている1964年製のリッケンバッカー325にはボディ、ネックともにメイプル材が使われています。アルダー材はボディ材として使うのは非常にポピュラーですが強度を要するネック材として使われていたのは非常にレアケースだと言えるでしょう。

ジョン・レノンは、あるインタビューで「最も大事なものは初代のリッケンバッカー325」だと答えています。このギター、2000年～2010年さいたま新都心にあったジョン・レノンミュージアムに展示されていました。私もこの開催期間中に何度かこのミュージアムに行った際は、このギターを飽きもせず長時間見続けていました。現在このギターはオノ・ヨーコの手元で大切に保管されています。（文・相原）



1964年2月9日、エド・サリヴァン・ショーに出演 (Wikipedia より)